

論文の内容の要旨

氏名：高 橋 昂 輝

博士の専攻分野の名称：博士（理学）

論文題名：トロントにおけるポルトガル系コミュニティと都市空間の変容

本論文の目的は、移民エスニック集団に注目することにより、北米における都市空間の特性および変容とその社会的含意を明らかにすることである。研究対象都市は、カナダのトロントである。トロントは、人口および経済規模においてカナダ最大の都市であり、北米においても第4位の人口規模を誇る。トロントの総人口に占める国外出生者の割合は、北米の主要都市では最も高く、約50%に達する。また、トロントには200以上のエスニック集団の構成員が居住するとされる。すなわち、トロントは北米における多民族都市の代表例である。本論文は、トロントのポルトガル系コミュニティを取り上げる。ポルトガル人によるカナダへの移住は1953年以降に確認され、その数は1960年代後半から1970年代前半にかけて最も増加した。1960年代以降、ポルトガル系移民はトロントのダウンタウンから約2km西方に位置する地区（リトルポルトガル）に集中的に居住してきた。現在、ポルトガル系人口はリトルポルトガルにおいて減少傾向にあるものの、依然として同地区内の総人口の約30%を占める。このことは、1960年代以降における当該都市空間を説明するとき、ポルトガル系コミュニティの動向に注目することが有用であることを示す。また、リトルポルトガルが位置するトロントのインナーシティでは、1960年代以降、ホスト社会住民が都心回帰することにより、ジェントリフィケーションが生じている。すなわち、ポルトガル系コミュニティの動向にくわえ、ホスト社会の動きにも注目することにより、トロントの都市空間の特性と変容をより精細かつ包括的に捉えることが可能になる。

本論文は、全7章から構成される。第Ⅰ章では、まず上述した研究の背景と目的を示した。その後、既存研究を①北米都市におけるエスニック空間の形成、②移民街の変容プロセス、③移民街におけるジェントリフィケーションと社会的混合、④業務改善自治地区BIAと移民街の観光地化、⑤BIA制度下における移民街のガバナンスの5項目に整理し、それぞれの成果と課題を指摘した。また、それらを踏まえ、研究の方法と分析手順を説明した。

第Ⅱ章では、トロントにおける多民族化の過程を説明したうえで、トロントの社会地理学的動態、およびリトルポルトガルの位置づけを論じた。第二次世界大戦以前、カナダの民族構成はイギリス系、フランス系にくわえ、その他の北西ヨーロッパ系集団に偏在した。終戦以後、カナダの移民政策は緩やかに解放され、1967年にはポイントシステムが採用された。さらに、1971年にはトゥルード首相により、二言語多文化主義が採択された。移民法が改正されたことにより、カナダでは次第に多民族化が進展した。他方、都市化の進展、産業構造の転換、ケベック州の分離独立運動などを背景として、1970年代、モンリオールに代わって、トロントが経済および人口規模において、カナダ最大の都市となった。法的制限が緩和されたことにより、カナダに移住可能となった世界各地からの移民は、就業機会に最も恵まれたトロントを移住先に選択し、その結果、多民族都市トロントが形成された。また、1960年代以降、トロントでは、リトルポルトガルを挟んで東西の両方向からジェントリフィケーションが始まった。リトルポルトガルはジェントリフィケーションの始点である東西2地域の中央に位置するため、その開始時期が遅かった。主に1990年代以降に始まったジェントリフィケーションは、今日でも継続している。現在、リトルポルトガルは地域変容期を迎えており、ポルトガル系住民とホスト社会住民が混在化している。

第Ⅲ章においては、先着したイタリア系コミュニティにより形成されたリトルイタリアーとの比較を通じ、移民街としてのリトルポルトガルの発展段階を位置づけた。1960年代以降、ポルトガル系移民はリトルポルトガルに居住するのみならず、そこに同胞を対象としたエスニックビジネスや社会組織を創設した。リトルイタリアーと比べると、リトルポルトガルには現在でも同胞の住民が多数居住し、ポルトガル系の事業所においては同胞の労働者が高い割合で雇用されている。しかし、リトルポルトガルにおいてもポルトガル系事業所の開業数は減少傾向にある。現時点において、リトルポルトガル

は総合型エスニックタウン期に区分されるものの、より厳密には、総合型エスニックタウン期からエスニック・ビジネスタウン期、または衰退期への移行段階にある。

第IV章では、居住、社会組織、エスニックビジネスの3つのエスニック機能に注目することにより、リトルポルトガルの変容過程を捉えるとともに、ポルトガル系コミュニティの社会空間を大都市圏スケールで明らかにした。1980年頃まで、3つのエスニック機能は全てリトルポルトガルに集積した。しかし、1980年代以降、ポルトガル系住民はリトルポルトガルから約3km北西の移民回廊地域とトロント市に隣接するミシサーガ市などの西部郊外に居住地を移している。また、1990年代中葉以降、ポルトガル系の社会組織が相次いで移民回廊地域に移転した。さらに、2000年代以降、エスニックビジネスもまたリトルポルトガルでは減少しつつある。すなわち、リトルポルトガルにおけるエスニック機能の離脱プロセスは、居住、組織、ビジネスの順に進行した。しかし、現在、リトルポルトガルには一定数のポルトガル系住民が残存するとともに、依然としてポルトガル系ビジネスの中心地として機能している。今日、ポルトガル系コミュニティの構成員は活動の内容に応じて、①リトルポルトガル、②移民回廊地域、③西部郊外の3つの空間を使い分けている。

第V章では、業務改善自治地区（Business Improvement Area（以下、BIA））に注目し、トロントにおける移民街の動態について、都市政策を基盤とした地域ブランディングの文脈から論じ、北米都市を分析するための空間的枠組みとしての同制度の意義を明らかにした。BIAは特定の地区内の土地所有者が自主的に課税することにより資金を確保し、域内の経済的活性化のために活動する地域自治制度である。1970年にトロントで誕生後、1980年代までにカナダ、1990年代以降アメリカで導入が進展した。1980年代以降、トロントではエスニック集団の名称を冠するBIAの設立が相次いでいる。こうしたエスニックBIAの出現は、1971年の二言語多文化主義政策への転換によるエスニックマイノリティへのまなざしの変化を反映する。エスニックBIAでは、エスニシティを基盤とした地域ブランディング（エスニックブランディング）が認められる。今日、トロントの移民街はエスニック集団の居住・生活空間としての特性が減少し、代わってエスニシティを経済的に資源化・商品化する空間となっている。しかし、全てのエスニックBIAにおいて、こうしたエスニックブランディングが円滑に進行しているわけではない。エスニックBIAでは、BIA役員会におけるリーダーシップの所在と役員の構成が、エスニックブランディングの発展を規定する。BIAという空間的枠組みにおいてローカルアクターに注目することにより、今日における北米の都市空間の様態を精細に捉えることができる。

第VI章においては、前章の結論を踏まえ、地元経営者の社会関係に注目することにより、リトルポルトガルBIAにおける近隣政治の構造を明らかにした。2013年9月現在、リトルポルトガルBIAには、ポルトガル系と非ポルトガル系（ジェントリファイアー）の事業所がほぼ同数ずつ確認された。ポルトガル系経営者が1960年代以降に出店した一方、非ポルトガル系経営者は2003年以降に増加している。理念的には、両者は友好的な関係性を築き、まちづくりのための様々な合意形成をおこなうことが求められる。しかし、域内の経営者の社会関係を分析した結果、両者は概して独立した社会ネットワークを有することがわかった。すなわち、ポルトガル系と非ポルトガル系の経営者は、リトルポルトガルという同一の空間に混在する一方、社会的には分断されている。現在、リトルポルトガルでは、非ポルトガル系経営者の社会関係がBIA役員会の活動に影響を与えるとともに、BIA役員会の活動が彼らの社会関係を強化している。ポルトガル系経営者は、数的には非ポルトガル系経営者とほぼ同数存在するものの、域内のガバナンスにおいては周縁的な立場に置かれている。

以上の分析結果に基づき、第VII章では、トロントのポルトガル系コミュニティを事例に、北米における都市空間の現況とその社会的含意を結論づけた。1960年代まで支配的であった白人至上主義に代わり、1970年代以降、北米では多文化・多民族を容認する動きが拡大してきた。こうした社会的な価値体系の転換に基づくホスト社会住民の都心回帰現象は、北米の都市内部において異なる社会経済集団の混在化を引き起こしている。本論文は、特定の都市空間において異なる集団が混在するとき、社会経済的に優位なホスト社会住民（ジェントリファイアー）が都市空間内部の政治的主導権を掌握し、劣位にあるエスニック集団が周縁化される結果を実証した。このことは、現代の北米都市に内在する社会的不平等を示唆する。本研究で注目した、移民法の改正、多民族化、BIA制度の導入、ジェントリフィケーションは、概ね全ての北米都市が経験してきた共通の現象・事象である。このことから、北米の他都市においても本事例と同様の状況が想定され得る。他都市との比較を通じ、北米都市における一般的特徴と各都市の固有性を同定することが、今後に残された課題である。